
男女共同参画・若手支援委員会企画シンポジウム
世代間ギャップから見える今必要な若手研究者支援
(Support for young researchers visible from generation gap)

オーガナイザー：日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会

Organizers: Promotion of Gender Equality and Young Researchers Committee

日時：9月17日（月・祝）11:45 - 12:35（ランチョンセミナーの時間帯）

会場：A会場（一般教育棟 B11）

言語：日本語

昼食：お弁当とお茶を無料で提供いたします。ただし、数に限りがあります。

形式：問題提起プレゼンテーションとグループディスカッション

司会：渡邊宙志（慶應大）

問題提起：高田彰二（京大）、大上雅史（東工大）、光武亜代理（明治大）

（当日変更可能性あり）

概要：博士号取得からPIとして独立するまでの期間は最も研究に集中できる時期ですが、近年はプロジェクトに紐付いた雇用形態が増加し、若手研究者からは自由な研究活動・チャレンジ・独立を促す制度を望む声が挙がっています。また任期付きポストが一般的となり、流動性が確保された一方で、若手研究者は多くの異動を経験するようになりました。女性の社会進出は進んでおり、共働き世帯の数は専業主婦世帯の2倍まで増加している中で、家庭を持つ研究者は家族との別居という選択に直面することが多くなりました。30代～40代という子育て時期と、研究者としてより一層の飛躍を目指す時期が重なり、働き方が変わってきた中でどのように自身の生活と研究者としてのキャリアアップを両立していくかは大きな課題です。社会状況が急速に変化する中で、若手研究者と彼／彼女らを雇用・受け入れる側のシニア研究者との間に、働き方・キャリア形成に関する考え方のギャップが生じる可能性が高まっています。

本企画シンポジウムでは、世代間でどのようなギャップがあるかを明らかにし、今まさに必要な若手研究者への支援について考えていきたいと思えます。はじめに、高田氏に統計的なデータから世代間ギャップを論じてもらいます。その後、提示されるいくつかの具体的経験談や独自のアイデアをベースに、必要な制度について世代ごとに分かれたグループで話し合ってもらいます。

学生、若手研究者の方の参加を歓迎します。生物物理という多様性のある学問分野を渡り歩いてきた、ミドル・シニア世代の方からも、厳しい世界を乗り越えられてきたご自身の貴重な経験を踏まえて、意見・助言等いただければと思います。各々の置かれている状況や意見をざっくばらんに交わすことで、今、何が必要なのか、探っていききたいと思います。